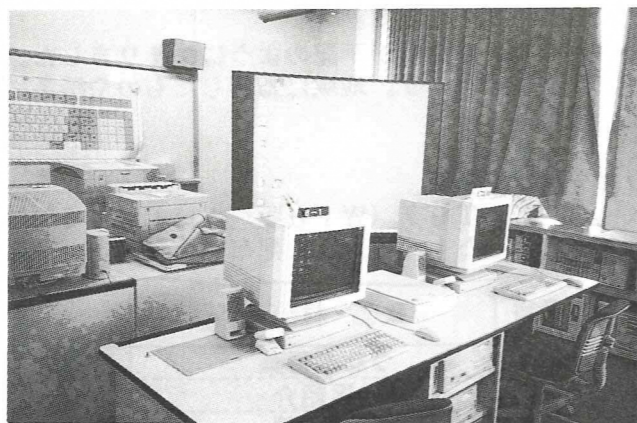


教育工学室一新

教育工学室の機器が更新の年を迎え、新しい設備を導入しました。

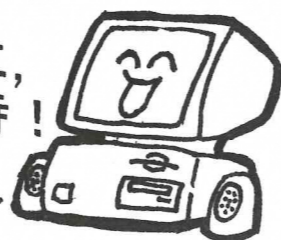
扇台小学校の清水和久先生を招いて行った5月30日の研修会で初めて受講者のみなさまに使っていただきました。ネットワークを通して12名の受講者が一斉にインターネットにアクセスし、それぞれに希望のホームページを見ることができました。とても有意義に講座を行うことができました。



新しい機器により、研修がより効果的に！

- ・サーバーの導入により、ネットワークによるデータの共有が可能になりました。
- ・12台のパソコンから一斉にインターネットへの接続ができるようになりました。
- ・パソコン2台に1台スキャナーとビデオが接続され、画像や音声の取り込みが順番待ちなくできるようになりました。
- ・MOドライブによって、大きな画像データも簡単に保存読み込みできるようになりました。
- ・カラーレーザープリンターで、鮮明な画像がプリントアウトできるようになりました。
- ・大型ディスプレイでパソコンの操作がとても見やすくなりました。
- ・マイク、スピーカー、CCDカメラが接続され、マルチメディア教材の作成が可能になりました。

これからの研修に、
乞うご期待！



情報・視聴覚機器の追加情報

ノートパソコン

ノートパソコンが新たに30台導入され、全部で100台になりました。現在希望の学校にすべて利用されています。7月に2学期の希望を調査いたしますので、学校単位でお申し込み下さい。用紙は7月始めに各学校にお送りします。

デジタルカメラ、MIDI キーボード

デジタルカメラ6台、MIDI キーボード12台が入りました。9月から貸し出しできるようになります。電話でお申し込み下さい。



発行者 金沢市教育センター
南 千 之
〒920 金沢市武蔵町14番31号
TEL (221) 7949・1642 FAX (221) 6800
URL <http://www.iia.or.jp/ed-center/>
e-mail ed-center@kanazawa.iia.or.jp

金沢市教育センターだより



第125号

写真：「そだち」カヌー教室 -水辺公園にて-

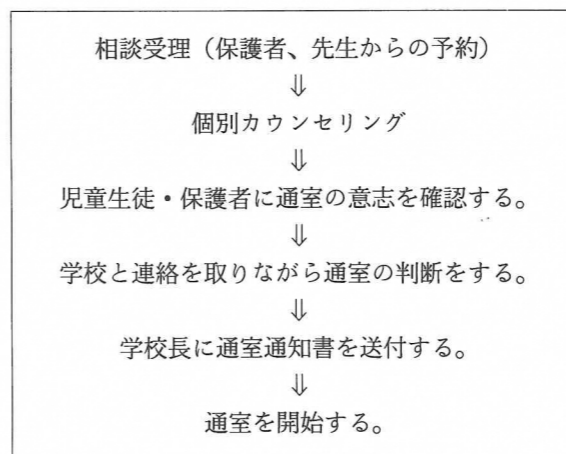
平成9年6月20日発行

「そだち」ってどんなところ？

不登校の児童生徒のための適応指導教室「そだち」を開設して8年目になりました。行き場を失った子どもたちに「居場所」を与えることを目標にして、文字どおり試行錯誤を繰り返してきました。この7年間で388名（年平均55名）の子どもたちが適応指導教室とかかわりをもちました（別表参照）。

今回は、教育センターだより第124号（前号）で簡単に紹介しましたが、《受け入れの手続き》《受け入れのめやす》《1日の活動内容》をもう少し詳しく紹介します。

《受け入れの手続き》



《受け入れのめやす》

- ・家庭以外の居場所を失っている。
- ・適応指導教室に通う意欲をもっている。

（別表）過去7年間の適応指導教室通室者人数

年度	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	合計	平均
小学生	5	13	12	13	18	11	15	87	12
中学生	28	43	51	50	55	38	36	301	43
合計	33	56	63	63	73	49	51	388	55

《1日の活動》

◇学習の時間（9:00～10:30）

9時00分から来室。「おはようございます。」と元気な声も聞かれますが、緊張のほぐれない子も多くいます。「そだち」での唯一のきまりは、「来た時と帰る時に職員室へ顔を見せること」ですが、あいさつができるには時間がかかるようです。集団に入りたい子は集団学習室へ、自分一人で過ごしたい子は個室へ……。学習は各自の計画に従って行います。

◇交流の時間（10:30～12:00）

友達と交流を希望する子は、この時間に来室。月曜と木曜は体育の日。旧松ヶ枝町小学校体育館でバドミントン、テニスなどで汗を流しています。驚くほど元気な姿が見られます。体育の日以外は、趣味や特技を生かしての制作活動やパソコン、卓球、音楽やビデオ鑑賞など、子どもたちが自発的に仲間をつくり楽しく活動しています。

◇帰宅の時間（12:00～13:00）

この時間帯に自由に帰宅します。帰りは一人一人に声をかけ、送り出すように心がけています。仲間ができると、弁当持参の子も現れ、話に熱中している子もいます。

◇課外活動（月に2～3回実施）

児童会館、図書館、美術館、遠足、宿泊体験、バーベキュー、カヌー教室、調理教室、ボランティア活動などの課外活動をととして生活意欲を高め自信がつくように援助しています。

さて、8年目を迎える適応指導教室の課題として、増加する不登校の子どもたちに、限られたスタッフでどう対応するか、連絡が途絶えがちな学校との連携をいかに密なものにしていくか、さらに、家にひきこもって「そだち」に参加できない子供たちへの援助方法等があげられます。今年もこれらの課題解決に向けてスタッフ一同努めたいと思います。（亀田）

子どもたちの心について

近年、心理学において注目されている分野の一つに「心の理論」があります。そこには子どもたちの発達を考えていく上で大切な観点が含まれています。

そこで「心の理論」に関する話題を3回シリーズで概観しながら、教育との関連性にふれていきたいと考えています。今回は、その第1回目として「心の理論」とは何かということを中心に述べてみます。

私たちは日常生活の中で人の具体的な行為を見たとき、その人が「どういつもりで、それをしたのか」と相手の心を理解しようとします。もしそのときに相手の心の状態が理解できなければ、相手の行為を誤解してしまい、お互いのコミュニケーションが成り立たなくなります。しかし、現実には私たちは相手の行為を誤解することが少なく、しかもその人の行為を説明したり、予測したりすることができるようになります。それは日常生活の中で他人の行動を観察しながら、他の人の心の状態を理解できるようになるからだと考えられます。その人の心の状態を理解しようとする働きについて、子どもたちが何を知っているのか、どのようにして人の行為を説明または推測できるようになるのか

かととらえようとするのが「心の理論」と言えます。

このような観点から「心の理論」の研究がなされていますが、現段階ではこの用語はいくつかの意味に用いられています。その中で最も狭いとらえ方をしている定義は次のようになります。“子どもは単に事実を発見したり、問題を解決することに留まらず、「理論を作る」ことによって、世界がどのように機能しているかを発見しようとする存在である。”というものです。この「心の理論」というなじみのない用語が使用されている理由は二つあると思われる。第一の理由は、心の内容を直接に見ることができず、科学の理論のように推論に基づいて作られたということです。また、いったん子どもなりの理論を構成すれば、科学理論と同じように他の人の行動を予測することも可能になるというのが第二の理由です。

しかし「心の理論」は科学の理論ほど厳密なものではなく、実用的でしかも普段の生活では意識されないものです。つまり何か問題が出てきた時に浮かび上がることで、他の人の心の中に再現された内容を理解することができるようになりますと言えます。(田野)

教育相談の基礎

不登校とカウンセリングマインド



不登校の児童生徒と関わっていらっしゃる先生方から、「家庭訪問はした方がよいのか」「登校刺激はあまりしない方がいいですね」「友だちを遊びにやらせた方がいいですか」など、時々質問を受けることがあります。どれ一つとっても大変難しい問題であり、一人一人の状況や背景がそれぞれ違いますから、マニュアルを見て簡単に答を出すというわけにはいきません。しかし、その判断をするときの指針となるものが「カウンセリングマインド」だと考えられます。

カウンセリングマインド——それは、文字どおり心のあり方や持ち方に関することであり、子どもたちに対する私たちの「姿勢」に深く関わってくるものです。学校に行けない(行かない)子どもたちのかかえる先の見えない不安や重さ、人との関わりがほとんど持てない孤独感や淋しさを、敏感に感じ取る「心」あるいは「姿勢」と言うこともできると思います。したがって、その子どもが「安心しているかどうか」が常に意識され、子どもの「行動」よりも「気持ち」や「感情」に焦点が向けられます。

例えば、家庭訪問について考えてみます。半年ほど学校に行っていない不安感の強い小学6年(女子)のAさん宅へ、新担任が訪問するという場面を想定してみましょう。「今度、お宅へ伺います。」という電話のあったその時から、Aさんの心は大きく揺れ始めます。どんな先生だろう?優しい先生か怖い先生か?学校へ連れて行こうとするのでは?半年も学校に行っていない自分をどう思っているだろう?普段とあまり変わらない顔の表情とは裏腹に、Aさんの頭の中では不安と期待がぐるぐる駆けめぐります。先生が玄関に入ってきた時、どんな顔をすればいいのだろう。何を着ていようか。何を話せばよいのか。いやそれよりも、先生に会おうか会うまいか。

さて、そんなAさん宅へ訪問するとします。表情、時間、話す内容、回数・・・、考えるべき要素はさまざまですが、その大前提として、Aさんの気持ちから目を離さず焦点化していきこうとする「マインド」を私たちがもっているとき、いつのまにかAさんの中に「安心感」が生まれてきます。そしてその「安心感」がAさんの中にいつもあるかどうかということが、その後の関わりでの判断基準になるとも言えるのではないのでしょうか。「カウンセリングマインド」とは、「相手が安心していられるような心くばり」と言うことではないかと思えます。(茶谷)

平成9年度 パソコンソフト・ビデオ教材制作委託者決定

今年度の委託制作者が下記のように決まりました。パソコンソフト教材16組、ビデオ教材4組です。地域にねざしたものと授業に使いやすい教材を制作します。乞うご期待!!

パソコンソフト教材

KiT, KiT97 (Win版), HTMLで制作します。昨年度制作したものは、近く配布いたします。是非ご利用下さい。



校種	学年	教科	教材名	制作者
小	5	国語	つなぎ言葉	玉瀬磨美子(伏見台小) 長山 光恵(富樫小)
小	4	社会	校区紹介	山岸 郁生(泉野小) 上田 雅人(泉野小)
小	5	算数	面積	安田 肇(諸江町小) 森 裕之(森山町小)
小	5	理科	ヒトや動物のたんじょう	菖蒲田英夫(米丸小) 澤田真理子(米丸小)
小	低学年	音楽	小学校校歌データベース	橋本 俊彦(森本小) 小坂 利明(泉野小) 荒木 泰彦(中央小) 座主 雄一(菊川町小) 勝田 徹(小坂小)
小	中高	保健	体をさぐる	山岸 明子(東浅川小) 鈴木 圭子(花園小)
小	高学年	体育	マット運動	鈴木久美子(木曳野小) 西川 茂治(木曳野小) 久保 幸恵(木曳野小) 川口 勝(泉野小) 永田 靖人(十一屋小)
小	全	英語	ハロー イングリッシュタウン	山岸 佳子(三和小) 釧地扶美子(明成小)
小	全	共通	小学校で使える インターネットURL集	西田 政人(大浦小) 村井万寿夫(明成小)
小	全	英語	マルチメディア英語教材	清水 和久(扇台小) 奥野 豊夫(三谷小) 上出 雅(木曳野小) 今井 京(南小立野小)
中	1	社会	郷土の遺跡	田中加寿子(高岡中) 大浦 邦江(野田中)
中	全	数学	JAVAでのWWW上の数学教材	青木 芳文(高岡中) 高野 英樹(高岡中)
中	3	理科	石川県の水生昆虫	山本 秀紀(港中) 尻屋 幹子(金石中)
中	3	理科	科学技術と私たちの生活	吉本 律子(高岡中) 埴生千賀子(兼六中)
中	全	音楽	音楽史	篠原 貴子(医王山中) 増田 鋭治(野田中) 前田 陽一(兼六中)
共通	全	共通	学校で使える 自作イラストデータベース	吉田 武志(戸板小) 竹内 仁志(新神田小) 杉本 英一(弥生小) 松田 聡(粟崎小)

ビデオ教材

☆けいじばん☆

○ ~小学校地域教材~ 「いいね金沢」シリーズ
*シリーズも折り返しの3年目を迎えました。環境と人という視点から自分たちの住むまち金沢を見つめるきっかけとなる教材作りを目指しています!

作品名	制作者名(所属)
"用水が今もいきるまち"	山崎 琢司(西蒲小) 能村 秀昭(龍小) 森田 清治(飯小)
"史跡をいかした町づくり"	小藤 強(金沢小) 野崎 晃(越前小) 荒川 和洋(糠小)
"公民館がいきるまち"	加藤 一彦(田上小) 河原 吉章(味噌小) 荒牧 秀樹(鷺小)
○ "住む人にやさしいまち"	橋本 孝一(林小) 吉本 雅之(森小) 加藤 雄一(楓野小)

